



結核しずおか

26号2010年4月23日

発行

財団法人 結核予防会静岡県支部
〒420-0915

静岡市葵区南瀬名町6-20

TEL 054-261-2512

FAX 054-261-9474

Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

発行責任者 鈴木美行

印刷 明和印刷株式会社



巻頭言

「他人ごとだとは思えないね。結核は現代の病気だ。」どこかで、聞いた、見たという人が何人くらいいるでしょうか。昨年の初夏から始まったビートたけしさんのボランティア出演によるポスターやテレビコマーシャルです。この中に、「日本では、今も4人に1人が結核に感染している可能性があります。」というショッキングな表現があり、「ほんとにそんなに多いのか？」という質問をよく受けます。これは、感染しても発症する人は少ないためです。

静岡県の結核新規登録患者数は、平成20年の数値で、622人です。平成11年の数値が1,044人ですから、約40%の減少と結核対策が大いに成功しています。対10万人罹患率で全国と比較しますと、全国の値は19.4人、静岡県は16.4人とかなり低くなっています。しかしながら、日本の結核罹患率は、世界的には中まん延国レベルで、まだまだ結核が多い国です。このため、政府や地方自治体、我々結核予防対策にかかわる団体などは、低まん延国（対10万人罹患率10人以下）目指して頑張っておりますが、この達成には10～15年かかると言われており、我々もこれまで以上に結核予防啓発活動と検診事業の充実に全力を挙げてまいります。

また、我々は、結核だけでなく、肺がん、胃がん、乳がん、大腸がん、前立腺がんなどのがん検診や、血液、心臓、目、耳などを検査する総合健診など、健康保持のためのチェックを行う検診事業を、学校検診、住民検診、事業所検診、施設検診という形で提供しており、本年度も職員一同誠意を持って、皆様の健康づくりをお手伝いさせていただきます。



財団法人結核予防会静岡県支部
常務理事兼事務局長 鈴木 美行

各市町等健康まつりに参加して

結核予防週間キャンペーン

結核予防週間中の平成21年9月26日(土)にアピタ静岡店にて、静岡県結核予防婦人会静岡市支部・静岡市保健所職員・静岡県厚生部疾病対策室職員・静岡クイーンと当支部職員の27名で実施しました。開始前から大勢の人が集まり、シールぼうやの着ぐるみや風船を活用することで、多くの方々への結核予防に関する知識の普及・啓発に努めました。



富士市健康まつり

平成21年9月27日(日)に保健福祉センター(フィランセ)にて実施されました。今年度は高齢者だけでなく若者にも結核の発病が全国的ニュースになり結核・肺がんの検診に興味をもつ人が多く見られました。例年通り子供用の風船や胸部検診リフト車も人気がありました。

小山町健康まつり

小山町は自然にあふれ山間に囲まれた町でもあります。平成21年10月3日(土)町総合体育館で町職員をはじめ各団体で、にぎやかに行われました。当支部も参加し、来場者の皆様に結核の怖さを重点的に呼びかけました。このようなイベントで町民の健康に対する関心・意識が年々高まってきている事を強く感じました。



焼津市健康まつり

平成21年10月10日(土)とてもにぎやかな雰囲気の中で焼津市保健センターにて、住民の方々とはふれあう機会を設けることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。今年もヘリウムガスを使って風船を配るサービスを行ったのですが、その場で風船が膨れる様子が子供達には面白かったらしく親子連れの方々にも多く当ブースに足を運んで頂くことができました。用意した「結核の常識」等の資料を快く受け取って頂きまして大変ありがとうございました。



しずおか元気応援フェア2009

平成21年10月11日(土)に、ツインメッセ静岡で開催されたしずおか元気応援フェア2009に出展しました。休日ということもあり、多くの家族連れの方がブースに立ち寄ってくれました。中でも風船は大人気で小学校高学年の女子が照れくさそうに風船を下さい・・・とってくれたことが印象に残っています。ストップ結核大使のビートたけしさんが結核の現状を知ることの大切さを訴える、テレビCMも放映され結核の恐ろしさが再認識されていると思います。



裾野市健康まつり

平成21年11月8日(日)裾野市福祉保健会館にて健康まつりが開かれました。毎年行っている骨密度検査は大変な人気で、開始前から行列が出来て多くの方に定着しているように感じました。時間的制限もあり残念ながら先着200名とい形で検査を無料で実施させて頂いております。機械を使っての検査となりますので、どうしても待ち時間というものが発生してしまうのですが、検査終了後に検査結果をもっていくと「ありがとう」という言葉を笑顔で受診者1人1人から頂いております。





複十字シール募金にご協力 ありがとうございます。

平成21年度も結核をはじめ、その他胸の病気の制圧のために、複十字シール運動にご協力いただき誠にありがとうございました。皆様のあたたかい善意にささえられ目標を上回る実績を得ることができました。心から感謝申し上げますとともに、今年度も変わりないご協力をお願いいたします。

募金協力者御芳名 (敬省略・順不同です)

家山鈴木医院・植木陽子・(株)NBNコンサルティング・遠藤勝男・大井山洞泉寺・大久保順夫・小原八郎・感應寺・帰一寺・教安寺・金原明彦・国東産婦人科医院・郡上寺・光明寺・コーチ(株)・さくら保育園・指出泌尿器科・(株)佐野・(株)佐野電気研究所・三晃建設(株)・静岡浅間神社・静居寺・芝田工業(株)・十輪寺・正覚寺石上良秀・城北保育園・菅ヶ谷内科医院菅ヶ谷純弘・成因寺・西琳寺・宗徳寺・高部幸子・立花クリニック・土屋貞代・(宗)摩利支天山大乘王院・天理教本磐分教室・名波医院名波登雄・(株)ニッシン・二の岡フーズ・東嶋功・普賢院・本能寺・水野矩子・御門台不動産・八木康彦・柳瀬敏夫・柳原社会保険労務士事務所・(有)丸誠石材・(有)多々良新聞店・(株)ゆざわ・陽明寺・吉川医院・龍豊院・冷泉寺・霊山寺・レシャード医院・蓮生寺・渡辺政一

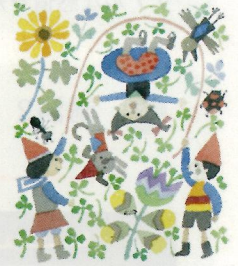
※多数の方々より善意をいただきありがとうございました。
大変恐縮ですが、多額の方のみの記載とさせていただきます。



平成22年度 複十字シールのご紹介

安野光雅先生の代表的な作品の1つです。「子ども」がテーマとなっています。男の子と女の子が楽しそうに遊んでいて、その周りを花々や動物達がたくさんちりばめられている特徴的なデザインで描かれています。シールを手にした方々が幼い頃無邪気に遊んだ事を思い出させる心あたたまるシールとなるでしょう。

今年度も皆様のお手元からこのシールを世界中に広めていただきますようご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。





平成21年度結核予防リーダー研修会開催報告

静岡県結核予防婦人会では、毎年、静岡県からの委託を受け、静岡県結核予防婦人会の幹部、市町の保健委員、保健師等を対象として、結核予防に携わる者の資質向上と結核予防活動の推進を図ることを趣旨とし、当研修会を開催しております。

21年度は、下記日程にて執り行われ、170名の参加を得て、盛会裏に終了いたしましたので報告いたします。

日 時	平成22年3月9日(火) 午後1時～4時
会 場	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」6階 大ホール

『結核』＝『過去の病気』『治る病気』という認識が強く、『結核』に対する危機感が薄れ、正しい知識が世間に知られていない昨今、昨年度、芸能人の結核発病や、天皇陛下が、かつてご自身が結核に罹患され、抗結核薬の投与によって治癒したことを明らかにされるなど、何かと『結核』が話題となり、『結核』はひとたび発生すれば、影響が大きいことが世間一般に広く知られることとなりました。

そのような現状の中で、今回、元結核患者であり、現在は東京本部(財)結核予防会職員である成瀬匡則様と(財)結核予防会結核研究所の星野斉之先生を講師としてお招きし、結核体験者と結核研究専門家という双方のご立場から、ご講演していただきました。

講演1 「隔離病棟での闘い」(財)結核予防会(東京本部) 事業部 普及課 成瀬匡則 様

印象に残っているのは、『鉄格子のない刑務所』という成瀬さんの言葉です。

普通の暮らしを送っていた成瀬さんにとって、『結核発病』はまさに晴天の霹靂であったこと、そして、その後の隔離病棟での長期入院生活、毎日、自由は制限され、孤独や不安に耐える生活は闘いであったと成瀬さんは振り返ります。退院後、(財)結核予防会の職員として活躍する中で、結核に関する研修会や講演会、また、結核予防全国大会など、そのようなイベントは、結核対策において、ある意味、主役であるはずの『結核患者』が不在のまま執り行われることが多いことに疑問を感じているとのこと、その一方で、隔離病棟での悲惨な闘病生活を送った患者の方々には、かつて結核であったことをカミングアウトされる方はそう多くないとのことで、元患者の立場から普及啓発を訴えていくご自身の活動が、今後、結核患者の方々を励まし、これまでとは異なる新たな視点での『結核』の普及啓発につながればとの思いでご活躍されていくとのことでした。

プライベートや自由がない、孤独・無言など隔離病棟の悲惨さや、世間ではばい菌扱いを受けるなど、ご本人の口からリアルな感情を知り、胸にせまるものがありました。たいへん興味深くお話をお伺いすることができました。



講演2 「結核対策 私にできること」

(財)結核予防会 結核研究所 対策支援部 企画・医学科長 星野斉之 先生



星野先生には、『結核対策』について、今、私たちに何ができるのかという観点からご講演いただきました。クイズ形式でのお話も挿んでいただき、楽しくお伺いすることができました。

『結核対策』については、様々なアプローチがあることと思いますが、ひとりひとりの個人での健康に対する意識と、そこから、個人の意識を患者の方々やその治療に関わるの方々への応援・協力につなげていく重要性が理解できました。

結核にならないように出来る範囲で健康増進していくこと、咳・熱・痰が2週間以上続いたら病院へ行くこと、定期的健康診断を受けること、結核患者の治療・接触者の健康診断を応援していくことが大切であることを先生はお話くださいました。多忙で、こころの余裕を欠きつつある現代社会においては、このような基本的なこ

とを実行することが困難である場合が少なくありません。個人レベルもさることながら、そのほか市町・国家レベルによる様々なアプローチにより、その困難を補完しつつ、今後の『結核対策』を広げていけたら素晴らしいと感じました。

星野先生のご講演を聴講させていただき、自分自身の健康に興味をもち、家族や友人など周囲の人たちにも身近に感じていただけるような普及啓発活動をしていき、今一度、自分自身にできることは何なのかを考える機会を与えていただいたと思っております。

平成21年度財団法人結核予防会静岡県支部長表彰

平成21年度財団法人結核予防会静岡県支部長表彰は、次の方々が受賞されました。

結核予防事業功労者（個人）



小野 皓様（浜松市保健所推薦）



小林邦雄様（東部健康福祉センター推薦）

平成21年度静岡県結核予防婦人会長表彰

平成21年度静岡県結核予防婦人会長表彰は、次の方々が受賞されました。

複十字シール募金成績優良団体

結核予防婦人会伊東支部	様	御殿場支部	印野地区	様
富士根女性連絡協議会	様	御殿場支部	高根地区	様
沼津市結核予防婦人会	様			

使用済み切手収集成績優良団体

小山支部様	御殿場支部様
川根本町支部様	富士支部様
沼津支部様	駿東支部様
裾野支部様	

結核予防功労者

前任支部長

伊東支部	山本弘子様
駿東支部	久保田博子様
三島支部	浜道まつ江様
富士宮支部	伊藤一枝様
富士宮支部	若尾美知子様
旧富士川町支部	清法様
焼津支部	奥川恵美子様

退任支部役員

富士支部	望月幸子様
------	-------



みなさまのご支援ご協力に
心より感謝申し上げます



なぜ・なに・なあに？

先日、受診者の方からこのような質問を受けました。「レントゲン写真って白黒写真ですけどカラー写真にはできないのですか？」残念ながら答えはNOです。白黒のレントゲン写真をカラー写真にすることはできません。その理由は『反射光』と『透過光』の違いにあります。光はフィルムを感光させる力を持っていますが、X線もフィルムを感光させる力を持っていますので、今回X線も一つの光と例える事にしてみましょう。

まず『反射光』なのですが、葉っぱの色は緑色をしていますよね。この緑色の葉っぱを真っ暗な部屋で見たときに緑色に見えるかという見えません。真っ暗な部屋では葉っぱも真っ暗です。これは葉っぱが周りの光を反射していないからです。このような『反射光』をカメラのレンズを透してカラー写真にすることはできます。しかし、レントゲン写真は人体を透過したX線を使って写真にします。このような『透過光』をカラー写真にすることはできないのです。もしもこの『透過光』をカラー写真にすることができたらノーベル賞を受賞することができるのかもしれないですね。

結核予防会出版

書籍のご案内

●「DOTSってなあに～人が人を治す～」

複十字病院 齊藤ゆき子・結核研究所 永田容子 共著
平成22年3月24日発行 定価 241円(税込み)
ISBN 978-4-87451-263-0



●「保健師・看護師の結核展望94号」

平成22年3月8日発行 定価1,995円(税込み)
ISSN 1347-4553

★特集★

- ①DOTSマネージメントⅢ 地域DOTSの未来像
- ②改正後の結核対策Ⅲ 結核対策のこれから

●「結核医療基準【平成21年改正】とその解説」

平成21年11月12日発行 定価2,100円(税込み)
ISBN 978-4-87451-259-3



- ❖ 書籍の注文および出版案内をご希望の方は
(財)結核予防会静岡県支部までお問合せ下さい。

お問合せ…

TEL : 054-261-2512 FAX : 054-261-9474

- ❖ HPでは最新情報を掲載しております。どうぞご利用ください。
HP : <http://www.jatahq.org>



題字：田中隆（元支部職員） 表紙撮影：村木弘知（元県職員）